

〔9月中の月例会・部会・委員会の開催について〕

会 員 各 位

公益財団法人 協 和 協 会 代表理事兼専務理事 清原淳平

新型コロナウイルス感染防止のため9月中の 月例会・部会・委員会の活動につきお知らせ

謹啓 暦学上は残暑の候ですが、なお連日、33度以上40度近い猛暑という異常気象。困って、ここに、酷暑の御見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス流行のため、2月以降、毎月末に、次月の月例会・部会・委員会を開催するかどうか、「お知らせ」をお送りしておりますが、今回は、9月のお知らせを申し上げます。

新春来、政府の自粛要請や異常事態宣言に基き、各部長・委員長の御意見もうかがい、自粛してきておりますが、6月に政府より、異常事態宣言解除の方針が出て、さらに「GO TO TRAVEL」推進の指示も出ましたので、御承知のように7月は原則、月例会・部会・委員会を再開いたしました。ただ、8月は、例年どおり、夏休みとさせていただきます。

しかしながら、7月～8月、再び新型コロナ流行が再発し、統計グラフ上、感染者数が、第1次の山よりもさらに高く巾も広い山を形成し、しかも全国的に感染が広がっております。先週に開催した日本感染症学会理事長から「いまは第二次感染の真っ只中にある」との発言もあります。政府はこの発言を認めませんが、「(感染者の多い)東京から出るな、東京へ行くな」という要請も出ております。また、新型コロナ流行と併発して、熱中症の患者の増加が警告されています。

そうした中で、当財団はどうするか、判断がむずかしいところですが、まず、月例講話会については、7月はいつもより広い会議室をとり、席の間隔も大きくとって開催しました。しかし、月例講話会は、密閉・密集・密接の三密の可能性もありますし、また、出席される方の交通機関におけるコロナ感染や熱中症の恐れも考え、9月は休会とさせていただくことにいたしました。

さて、各種部会・委員会ですが、こちらは、当初からの方針、すなわち、各部長・委員長の御意向を踏まえ判断することには変わりはありませんが、先週末に御意見をうかがった結果では、その部長・委員長あるいは熱心な会員の中に、東京都の外から来られる方も多く、その方の住む県の知事さんから「極力、東京に行かないように」との要請もあり、また、御家族の方々から反対があって、行きたいけれども出席出来ない、との回答もありました。

しかし、部会・委員会の開会か否かは、上記のように、「その部長・委員長の御意向を踏まえる」のが、3月以来の当財団の方針ですので、9月に開会する部会・委員会については、当方より、御案内状をお送り申し上げます。

右ページへ続く

以上の情況・経過から、9月の月例会、そして、各部会・委員会は休会するところが多いですが、その休みの間、新エネルギー委員会、環境技術委員会、そして交通部会については、その参加者の要望により、その部会・委員会の資料を、御送付してきておりますので、御希望の方は、事務局へお申し出下さいますよう、御願い申し上げます。

また、3月以降、会員の皆さま方が、新型コロナウイルスに感染されないよう願って、新型コロナに関する参考資料を見つけて、それをコピーして、毎月末の「お知らせ」に同封してきておりますが、今回も、免疫学の国際的権威でいらっしゃる奥村康順天堂大学医学部特任教授の書かれた『“免疫力”ってなんですか？—— したら、免疫力は上がりますか？』と題する論述を発見しましたので、コピーして、ここに同封いたしましたので、御参考にして下さい。

なお、もう一つ、古い資料ですが、『提言』（第一号）をコピーし同封させていただきました。御承知の方もおられると思いますが、清原は、岸信介先生が総理大臣在任の折、西武グループを創立された堤康次郎衆議院議員（元衆議院議長）の（政治・経済双方に関する）総帥秘書室に勤務していたことから、堤康次郎に付いて総理官邸に参上したり、西武の「箱根湯の花ホテル」で毎月1回ということで開催された、吉田茂元総理、岸信介現職総理と、堤の3者会談「清談会」にお伴したことから、その際、岸信介総理の御面識を得ました。

そうしたご縁もあり、降って昭和53年秋、清原が、教育評論家兼哲学者として著書を出版し講演をしていた時期、私の講話を聞いて下さった岸信介内閣時代に閣僚を務めた方から「岸先生が、来年の総選挙には出馬しないで、これからは、すでに設立してあった『（財）協和協会』を活性化したいとして、その実務執行者を捜しておられるので、清原君を推薦した」と言われて、岸事務所に同伴された結果、岸信介先生も当時を覚えておられて、当初辞退申し上げたが、結局、『（財）協和協会』の常務理事兼事務局長に任命され、その後、逐次、やはり岸信介先生創立の3団体の執行を命ぜられ、私も「命ある限り、岸信介先生の精神・指示に従って、尽瘁いたします」とお約束したので、今日まで半世紀に亘って、これら各団体の執行に当たっている次第です。

岸信介先生というと、1960年の安保騒動の時に、左翼の論客・報道によって、非難・攻撃した書物が沢山出て、それが種本になって、今日でも、右翼、悪徳、悪運、怪物等々の言葉を冠した書物が多く出ていますが、上述のように、昭和53年秋から昭和62年8月7日に逝去されるまで約10年にわたり、（秘書ではなく）岸信介先生創立の各団体の執行役員として接し、その御発言を聞いた私としては、岸信介という人物は、戦前・戦中、戦後、その置かれた時々の地位において、常に全力を上げられた方で、傑出した人物であり、これほど、世間から誤解を受けている人物はいない、と痛感し残念に思っております。

ここに同封した『提言』（第一号）は、（財）協和協会の毎月2回の月例講話会や部会・委員会での参加者の発言や活動を記録した機関誌で、昭和54年1月に活動開始してから2年後の同56年から年に4回程度発行してきたその第1号ですが、冒頭の設立趣旨にせよ毎月の巻頭言にせよ、これによっても、岸信介先生の人物・識見の一端が分かっていただけだと思いますので、会員の皆さまにはぜひ岸信介先生の精神を分かっていたいただきたく同封しました。

9月の休会中に、御一読をいただけますれば、幸甚に存じます。

敬具